

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第2部門第6区分
 【発行日】平成17年6月9日(2005.6.9)

【公開番号】特開2004-276948(P2004-276948A)
 【公開日】平成16年10月7日(2004.10.7)
 【年通号数】公開・登録公報2004-039
 【出願番号】特願2003-69872(P2003-69872)
 【国際特許分類第7版】

B 6 5 D 5/72

B 6 5 D 83/08

【F I】

B 6 5 D 5/72 A

B 6 5 D 83/08 G

【手続補正書】

【提出日】平成16年8月27日(2004.8.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】ラップ収納箱

【特許請求の範囲】

【請求項1】

箱主体と、この箱主体の上方に開閉自在に設けられた蓋体と、この蓋体の先端部に設けられ、引き出されたラップを切断する切断部と、箱主体の前面板に前記切断部と交差し、且つ箱主体長手方向の略中央部に設けられ、更に箱主体の底面部に開放している指用凹所部を有しているラップ収納箱。

【請求項2】

箱主体と、この箱主体の上方に開閉自在に設けられた蓋体と、この蓋体の先端部に設けられ、引き出されたラップを切断する切断部とを有し、且つ、切断部の中央付近の一部を箱主体方向に折り曲げるように構成したラップ収納箱。

【請求項3】

箱主体と、この箱主体の上方に開閉自在に設けられた蓋体と、この蓋体の先端部に設けられ、引き出されたラップを切断する切断部と、箱主体の前面板に前記切断部と交差し、且つ箱主体長手方向の略中央部に設けた指用凹所部とを有し、且つ、前記切断部の一部を指用凹所部方向に折り曲げるように構成したラップ収納箱。

【発明の詳細な説明】

【0001】

発明はラップ収納箱に関し、更に詳しくはラップの引き出しや切り離しが容易なラップ収納箱に関するものである。

【従来の技術】

【特許文献1】特開 2001-180664

【0002】

ラップは食品を容器に入れ冷蔵庫などにて保存するときや、電子レンジにて過熱調理するときなどに、容器の上面を覆い、食品の水分の蒸発を防止し、品質の低下を防ぐために用いられている。

【0003】

通常、ラップは収納箱に収納されており、使用時に所望の量だけ収納箱から引き出されて使用されるものである。

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ラップの取り扱い性は、ラップの引き出し性と切断性に依存するもので、これら両者の改善による取り扱い性の向上が使用者から強く望まれている。

前者においては、ラップ収納箱の前面に水滴が付着したりすると、ラップが前面板に密着してしまい、次に使用する際にラップの端をつまむことができず、ラップの引き出しが困難なものとなっている。

【0005】

この問題点を解決するために、当発明者は、ラップの引き出し性、即ち、ラップの引き剥がしを容易にするために前記特許文献1記載の発明を提案した。

【0006】

特許文献1記載の発明によれば、指用凹所が前面板のみに形成してあり、ラップの端を爪、又は指でつまむことができ、引き剥がしについてはやや改良されているといえる。

充分に入り込むことが望めずラップの引き出し性の面で未だ充全しかしながら、指用凹所が前面板のみに形成してあることから、指がラップの裏側までとはいえなかった。

【0007】

一方、ラップは一部に切れ目が生じると、それを起点として容易に切断できる性質を有しているものである。

【0008】

本発明は、ラップの端を指で容易につまめるようにしてラップの引き出し性を向上することと、併せて切断性を向上し、結果として取り扱い性の良いラップ収納箱を提供することを目的としてなされたものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】

前記課題は、箱主体と、この箱主体の上方に開閉自在に設けられた蓋体と、この蓋体の先端部に設けられ、引き出されたラップを切断する切断部と、箱主体の前面板に前記切断部と交差し、且つ箱主体長手方向の略中央部に設けられ、更に箱主体の底面部に開放している指用凹所部を設けること、あるいは、箱主体と、この箱主体の上方に開閉自在に設けられた蓋体と、この蓋体の先端部に設けられ、引き出されたラップを切断する切断部とを有し、且つ、切断部の中央付近の一部を箱主体方向に折り曲げるように構成することにて達成される。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下本発明の実施の形態について図を参照して説明する。

【0011】

図は本発明の一実施例を示すもので、図1は本発明の一実施形態の収納箱の蓋体を開いた状態の斜断面図、図2は同じく蓋を閉じた状態の斜断面図、図11は収納箱の展開図である。

【0012】

収納箱は、図11のように裁断されたやや厚手の紙から構成される。この図で点線は谷折の部分で、図示上で、それぞれ左右の耳部分は糊付けに供される。

【0013】

図でロ、ハ及びニの部分はラップロールWを収納する箱主体1を構成する。

ここで、ロは前面板6となる前面部、ハは底面部、ニは背面部である。

【0014】

ホとヘは蓋体2を構成する。符号3で示す点線部分が箱主体1と蓋体2を開閉自在に接続するヒンジとなる。

ここで、ホは上面部、ヘは後述するカッター4の保持部で前記前面部ロに重なる部分で

ある。

【0015】

イはラップの巻き戻りや飛び出しを防止する部分である。

【0016】

4は蓋体の2の先端部に設けられた金属で形成されたカッター4で、引き出されたラップを、所望の長さに切断するものである。但し、保持部への紙材が相当硬質の場合は、紙材そのものに鋸歯状刃を形成し、このカッター4は省略することができる。以降、これらの鋸歯状刃等は、カッター4で総称する。

【0017】

図3において、5は口で示された前面板6に押し出しによって形成された指用凹所部5で、その大きさは少なくとも人差し指の指先の挿入が可能な寸法とされている。又、その位置は、図2に示すように蓋体2を閉じた状態で、カッター4の略中央部分と交差する位置とする。

【0018】

言い換えれば、この位置は切断されたラップの端面線と交差する位置とも言え、又、この位置は箱主体1の長手方向の中央あるいは中央付近でもある。このように中央付近に指用凹所を設ければラップに偏った力が加わらず、つかんだラップの引き出しをスムーズに行うことができる。

【0019】

この構成によれば、指を指用凹所部5に容易に挿入することができるので、切断後の前面板6にラップが完全に密着したとしても、切断されたラップの端を爪や指で剥離してつかむことは可能となる。

【0020】

この指用凹所部5は、前面板6を手前からの押し出しによって形成してあるので、外気や虫が収納箱に入ることがなく衛生的である。

【0021】

又、指用凹所部5の底部が指を挿入する時のガイドになって、前記のように、ラップの端部を剥がしスムーズにつかむことが出来、これによってラップの引き出しを容易に行うことが出来る。

【0022】

前記指用凹所部は、前面板6に押し出しによって形成されているので指を挿入するための十分な大きさものを得ることは困難であり、ラップのつかみ性が必ずしも充分とはいえないものであった。

これを改良してつかみ性を大幅に向上する構成を図4に示す。

図4は指用凹所部5の底部を、箱主体1の底面部ハまで切り込み、その裏面に覆い部材52を接着剤等によって接着したものである。この構成は、この切り込みが収納箱の底部に達しているので指用凹所部5は底面部ハまで開放されており、指を開放された底面部から挿入することができ、切断されたラップの端を確実につかむことが更に容易となる。又、前記と同様、外気や虫の侵入が防止されるので衛生的である。

【0023】

次に指用凹所部5の他の構成について説明する、

図5は前面板6に穴51を開け、別途紙で構成した覆い部材52を穴51の裏面外周に糊付けしたものである。又、外気や虫の侵入が防止されるので衛生的である。

【0024】

図6は、前面板6に穴を開け、前記紙材に代えて発泡スチロールで形成した覆い部材53を穴の裏面外周に貼付したものである。

【0025】

図7は前面板6に2本の切り込みを設け、2本の切り込み間を裏面に押し出し形成し、覆い部材52を形成したものである。この構成は前記図4乃至図6に示した構成に比して製造が容易となるが虫やゴミの侵入を防止できないことから余り好ましいものではない。

【0026】

図8は、前記同様前面板6に2本の切り込みを設け、2本の切り込み間部分を裏面に押し出し、一方を図に示すように切断して形成したものである。この構成によれば、図7に比較して、指用凹所部5を深く形成することが出来る効果がある。

【0027】

前述のように、指用凹所部5は種々の形態が考えられ、使用目的に応じて任意に選択して採用され得る。

【0028】

次に、蓋体2先端部に設けられる切断部となるカッター4の構成を説明する。

【0029】

前記蓋体2の先端部に設けられるカッター4は、元来、収納箱とは別途に構成され、後に蓋体の先端部に取り付けられるものである。

【0030】

次に、カッター4自身の形状について説明する。

【0031】

カッター4は、主に金属板に鋸歯状刃を形成して構成されるが、一部には箱自身に鋸歯状刃が構成されたものもある。

【0032】

図9は、カッター4の略中央部の一定部分に折り曲げ部を設け、この折り曲げ部を、先端に丸みを有した半円形状4-1に構成した状態を示したものである。

【0033】

この半円形状4-1は、箱主体1の前面板6に設けられた、指用凹所部5に入り込む形状となされている。

【0034】

図10は、他の例を示すもので、この折り曲げ部を、前記の指用凹所部5方向に向け先端を鋭角4-2に構成したものである。

【0035】

前記構成のうち、前者図9の半円形状4-1は全体的にゆるいカーブを描いているので、使用時において指等の素手への損傷を招くことが防止され、安全性の高いものとなっている。

【0036】

一方、後者図10の先端部を鋭利に形成した方が、ラップ面に切り離しの起点を設ける点では有利であるが、使用時に鋭利部分による指等への損傷等が予想され、安全性においては不利である。

【0037】

前記構成で当発明者がカッティング性について検証したところ、両者に実用上の特段の相違は認められず、安全性から前者の構成が有利であることが確認された。

【0038】

尚、前述以外の指用凹所部5に入り込む折り曲げ部は前記以外の形状も考えられるもので、これらの構成も本発明技術的範囲に含まれるものである。

【0039】

前記構成によれば、カッター4に折り曲げ部を設けたので、この折り曲げ部によってラップに切り込みの起点が発生し、この部分から端方向へ切込み(亀裂)が走り、結果としてラップが容易に切り離されるので、ラッピング性が向上する。

【0040】

更に、前記に加え、指用凹所部5との作用と相俟ってラップの引き剥がしを容易にしているので、更にラッピングを容易に行うことができるものである。

【0041】

尚、前記一実施形態のほかに応用形態や変形形態も考えられるが、これらも本発明の技術的範囲内に入るものである。

【 0 0 4 2 】

【発明の効果】

以上述べたように本発明は、ラップの端を指で容易且つ確実につまめるようにしてラップの引き出し性を向上し、更にラップの切断性を向上し、結果として取り扱い性の良いラップ収納箱を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施形態を示すもので、蓋体を開いた状態の斜視図。

【図 2】同じく蓋体を閉じた状態の斜視図。

【図 3】同じく指用凹所部付近の断面図。

【図 4】同じく他の実施形態の指用凹所部付近の断面図。

【図 5】同じく他の実施形態の指用凹所部付近の断面図。

【図 6】同じく他の実施形態の指用凹所部付近の断面図。

【図 7】同じく他の実施形態の指用凹所部付近の断面図。

【図 8】同じく他の実施形態の指用凹所部付近の断面図。

【図 9】同じくカッターに一実施例の形状構成を施した状態の単体平面図。

【図 10】同じくカッターに他の実施例の形状構成を施した状態の単体平面図。

【図 11】本発明の一実施形態を示すもので、収納箱の組み立て前の展開図。

【符号の説明】

1・・・箱主体、 2・・・蓋体、 3・・・ヒンジ、
4・・・カッター、 5・・・指用凹所部、 6・・・前面板、
51・・・穴、 52・・・覆い部材、 4-1・・・半円形状。